



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 55

PROFILE

1981年生まれ。学生時代にモデルやCM出演の傍ら音楽活動を始め、現在はソロ活動のほか、兄弟と共にYANO BROTHERSとしてもライブを行っている。映画「ハーフ」（2013年）や、「すぼると!」、「世界ふしぎ発見」などテレビ番組にも多く出演。社会問題を取り上げるトークイベント「箱舟に積むモノ」を立ち上げ、活動中。一般社団法人Enije（エニジェ）代表。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー。

僕は6歳で母の故郷ガーナを離れて以来、ずっと日本で暮らしてきました。22歳になったある日、たまたま出会った人に「ガーナを知らないということは、お母さんのルーツを大切にしていないということだ」と叱責され、その3週間後にガーナを訪れました。しかし、その時は日本との文化の違いがあまりに大きく、2週間の滞在では現地になじむことができませんでした。

それから4年後、とあるNPOの代表が「ガーナに支部を開きたいので手伝ってくれないか」と声を掛けてくれました。ちょうど、かつての恩人に「ガーナを案内してほしい」と頼まれたばかりだったので、これも巡り合わせだと思って二度目のガーナ行きを決めたことが転機となりました。

長期滞在してNPO設立の手續きに取り組み中で、少しずつガーナの空気、文化に慣れました。現地で親しくなった人々と治安の悪い下町で食事をした時のことです。後ろから僕の肩を何度も叩いて気を引こうとする誰かがいて、追い払おうと振り返ったら目が合ったんです。僕の小さいころと瓜二つの少年でした。

貧困を「おかしい」と言える社会に 矢野デイビット

ミュージシャン・タレント

David Yano



雷に打たれたような心持ちでしたね。

その時、僕の変化に気付いた友人たちが、心配して言ったんです。「気にするな。ここは貧しい人の多い地域なんだ。ああいう子どもがいるのは当たり前だよ」と。

でも、僕はそれを「当たり前」だと言える人間であってはならないと思いました。おかしいことは「おかしい」と言えなくて、と。これは、父が小さいころの僕に行動で教えてくれたことでもあります。

日本に帰ってから、自分の得意なことを生かしてあの子たちの力になる方法を考えました。僕も周りの人たちも楽しめるものをお金に換えて届ければいいと考えて、イベントを通じた寄附金集めを始め、3年前には一般社団法人という形も整いました。

今、ガーナで建てている学校は、現地の人々が主体となって運営する学校です。僕は教育する側、先生たちの教育につなげたいんです。校舎の数ではなく、子どもたちの未来に選択肢が増え、永続的に夢が広がるのが、僕の考える成果です。そのために運動会やサッカー教室などを通してコミュニティーと親睦を深め、親が安心

して子どもを学校に送り出せる町を作りたいと考えています。

物質的には日本が豊かでガーナは貧しいかもしれませんが、ガーナには日本が忘れかけている人間的な豊かさがたくさんあります。例えば、自分が生きていることを感謝できる心。また、日本には手ごろな価格の商品が山ほどありますが、それはよその国の人たちが商品を安く作って、日本に売ってくれるおかげです。僕たちは、互いに支え合って豊かになっていく——そのことに感謝する気持ちは大切ですよ。

日本は平和ですが、困っている人に助けの手を差し伸べたり、おかしいことを見た時に声を上げて指摘するのが難しい。そうした行動の大切さに気付いてもらえるよう、働き掛けていきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索